

< 企業勃興(1886~) >

松方財政 = 松方正義によるデフレ政策(1881~)

銀本位制確立
(1886)

紙幣価値・
物価が安定
→ 金利が低下

地主に土地集中

寄生地主に成長

小作料収入など
資金を株式投資

自作農が没落

小作農に転落

子女の出稼ぎ
(安価な労働力)

会社設立ブーム = 企業勃興(1886~)

< 貨幣法(1897)による金本位制移行の背景 >

貨幣法制定(1897) = 金本位制(欧米で主流)移行

→ 目的 = 円為替相場の安定と貿易の振興

① 日露戦争に備えた軍備拡張をするため

欧米からの軍需品・機械など輸入が増大

but 金銀相場の不安定による銀価格の下落

→ **銀安・金高** = 円(銀本位制)・ドル(金本位制)のため、**円安(輸出有利)・ドル高(輸入不利)**

② 欧米からの外貨導入(外国資本の輸入)をはかる

→ 外国債を発行して欧米から金を受け取る

<財閥の多角化>

三井合名会社(持株会社)

- ① 同族中心に経営
- ② 多角的に経営する
コンツェルン形態へ

株式を保有する
ことで、系列の
傘下企業を支配

三井
銀行

三井
物産

三井
鉱山

三井
生命

王子
製紙

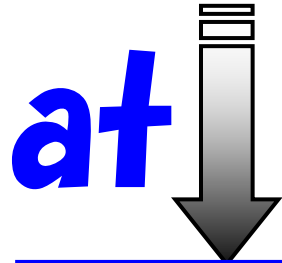
<生産形態の変化>

資金



17世紀... 農 村 家内工業

18世紀... 問屋制 家内工業



19世紀... 工場制 手工業

20世紀... 工場制 機械工業



< 絹産業 >

(絹糸)

(絹布)



蚕の繭

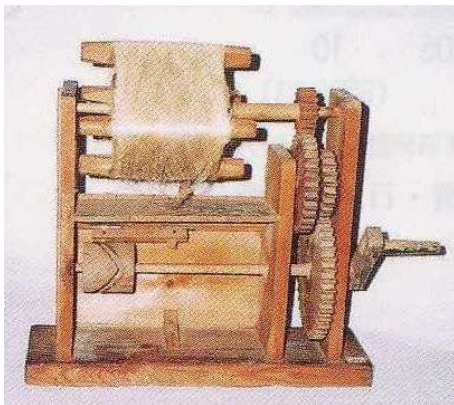
生糸

絹織物

養蚕業

製糸業

絹織物業



座繰製糸 → 器械製糸

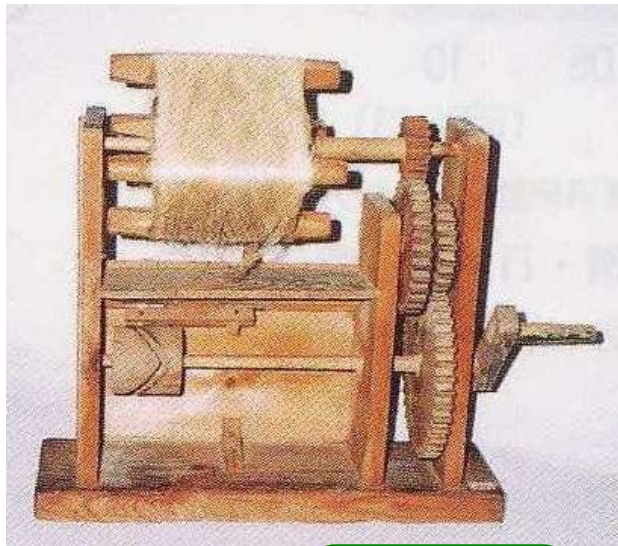
手織機 → 国産力織機

< 製糸業の発達 >

(手工業)



(機(器)械工業)



農村部の
小工場で
発展



座繰製糸



器械製糸

(水車が動力)

フランスの輸入機械を日本型に改良

<綿産業>

(綿布)



綿花



綿糸



綿織物

綿作

(綿)紡績業

綿織物業



手紡 ⇨ ガラ紡 ⇨ 紡績機械 手織機 ⇨ 国産力織機

<輸出品>

1885年

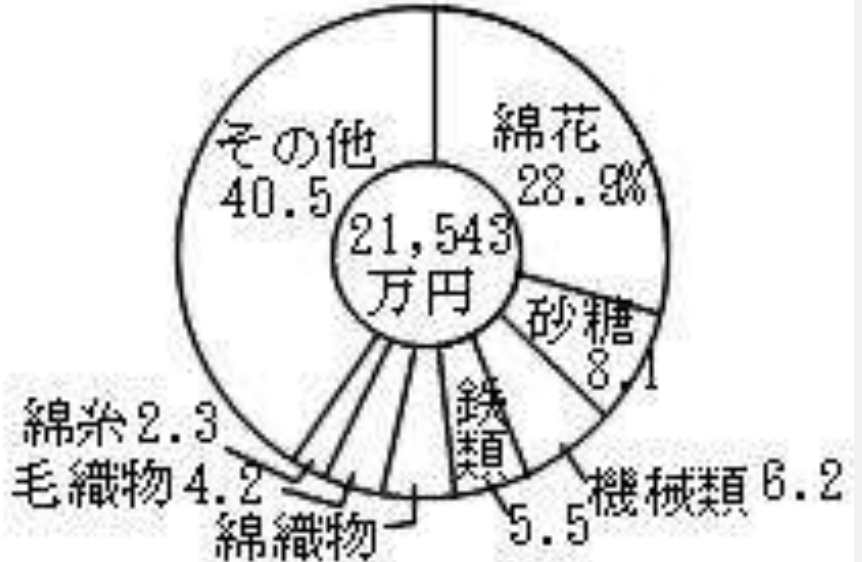
<輸入品>



輸出品

1899年

輸入品



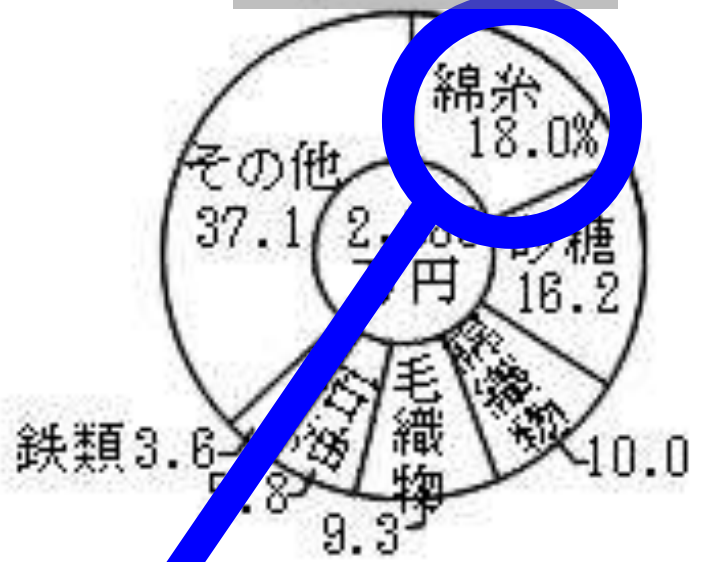
輸出品

1913年

輸入品



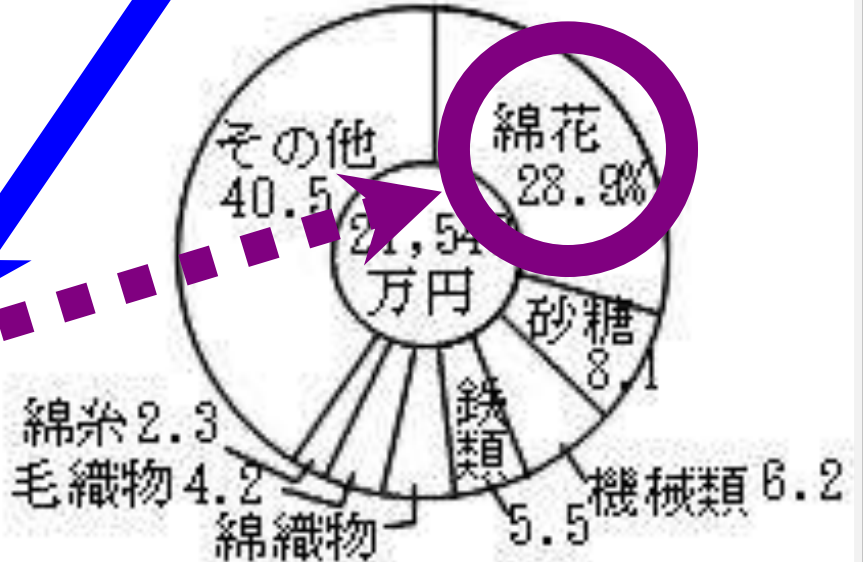
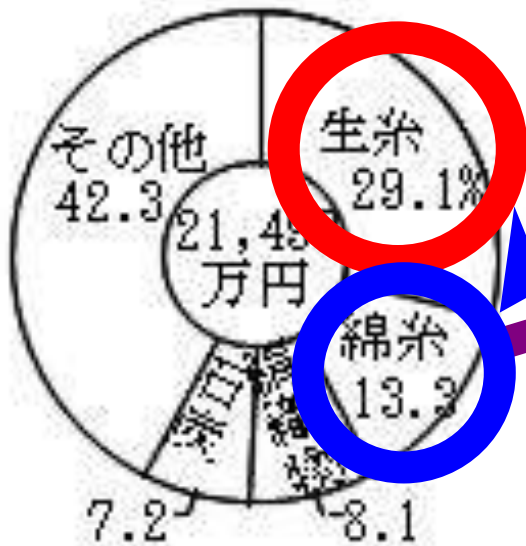
<輸出品> 1885年 <輸入品>



輸出品

1899年

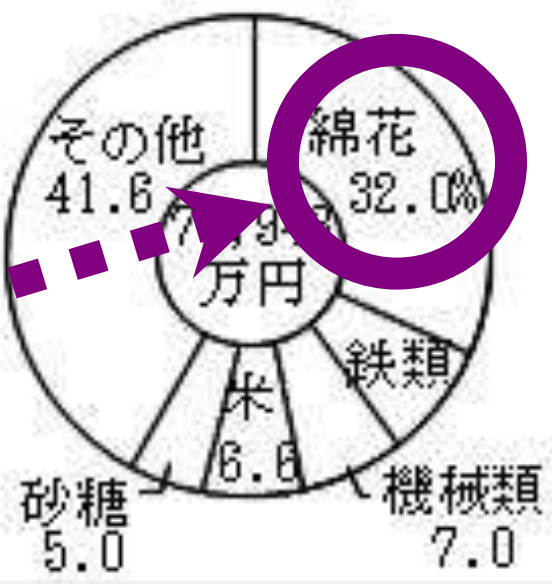
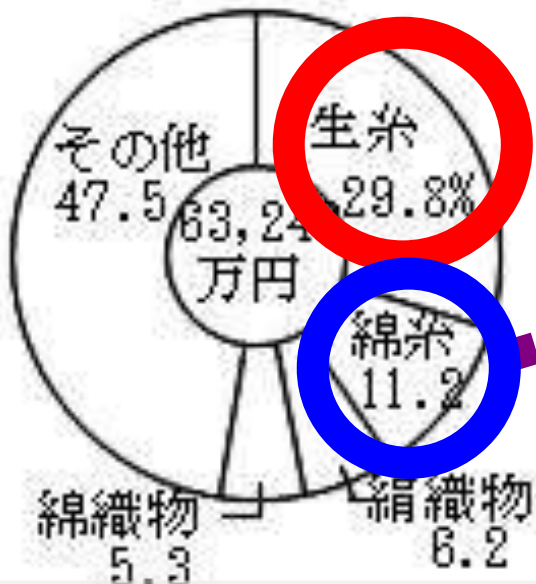
輸入品



輸出品

1913年

輸入品



< 綿花輸入・綿糸輸出ルート >

綿糸輸出
関税撤廃

中国

朝鮮

神戸

中国産

(綿花)

インド産

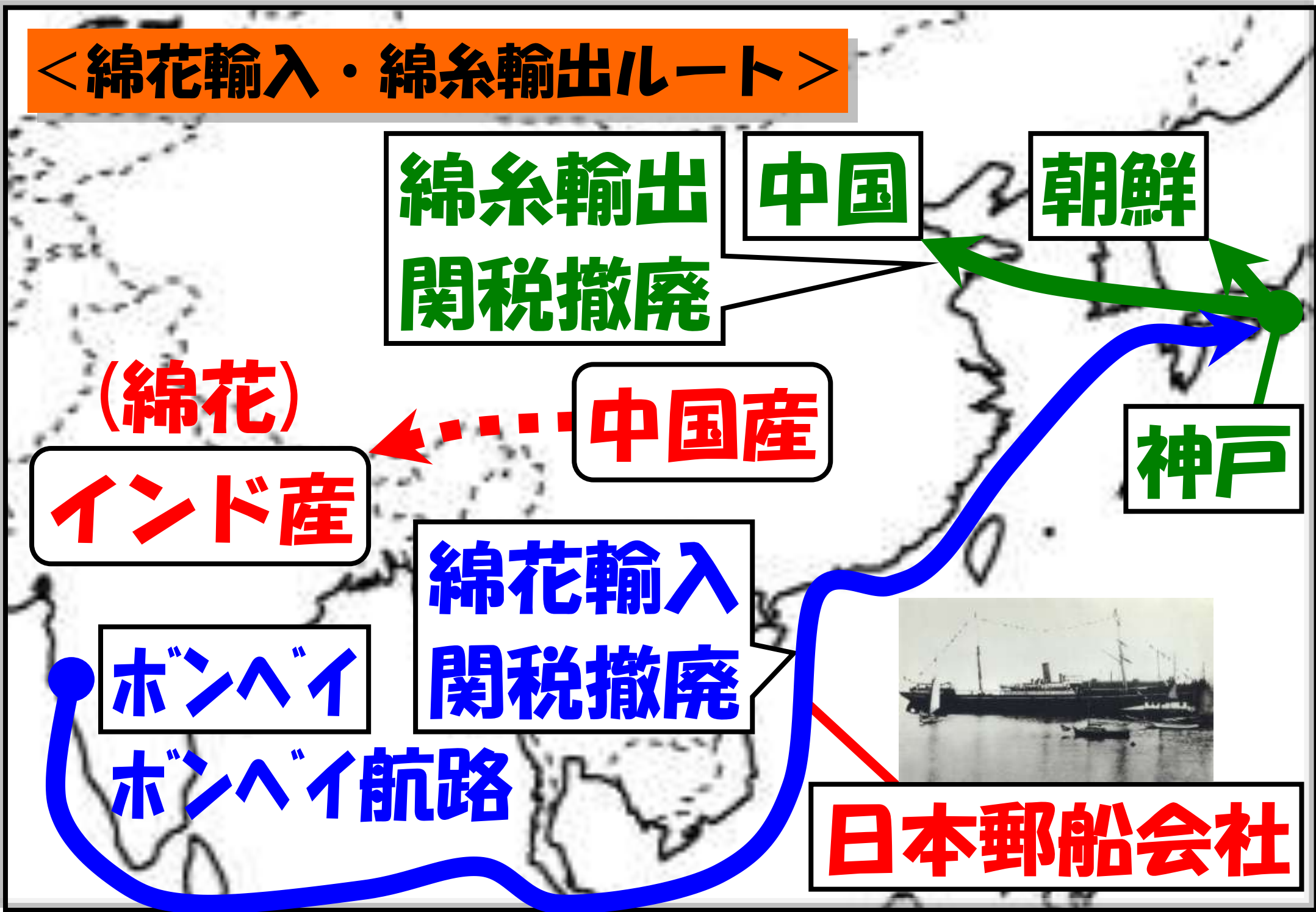
綿花輸入
関税撤廃

ボンベイ

ボンベイ航路



日本郵船会社



< 紡績業の発達 >

(手工業)



(機械工業)



手紡

ガラ紡

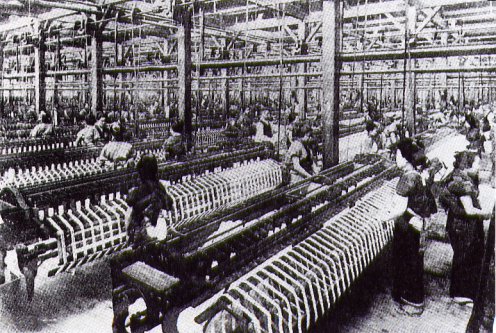
ミューール紡績機

臥雲辰致
が発明
水車が動力

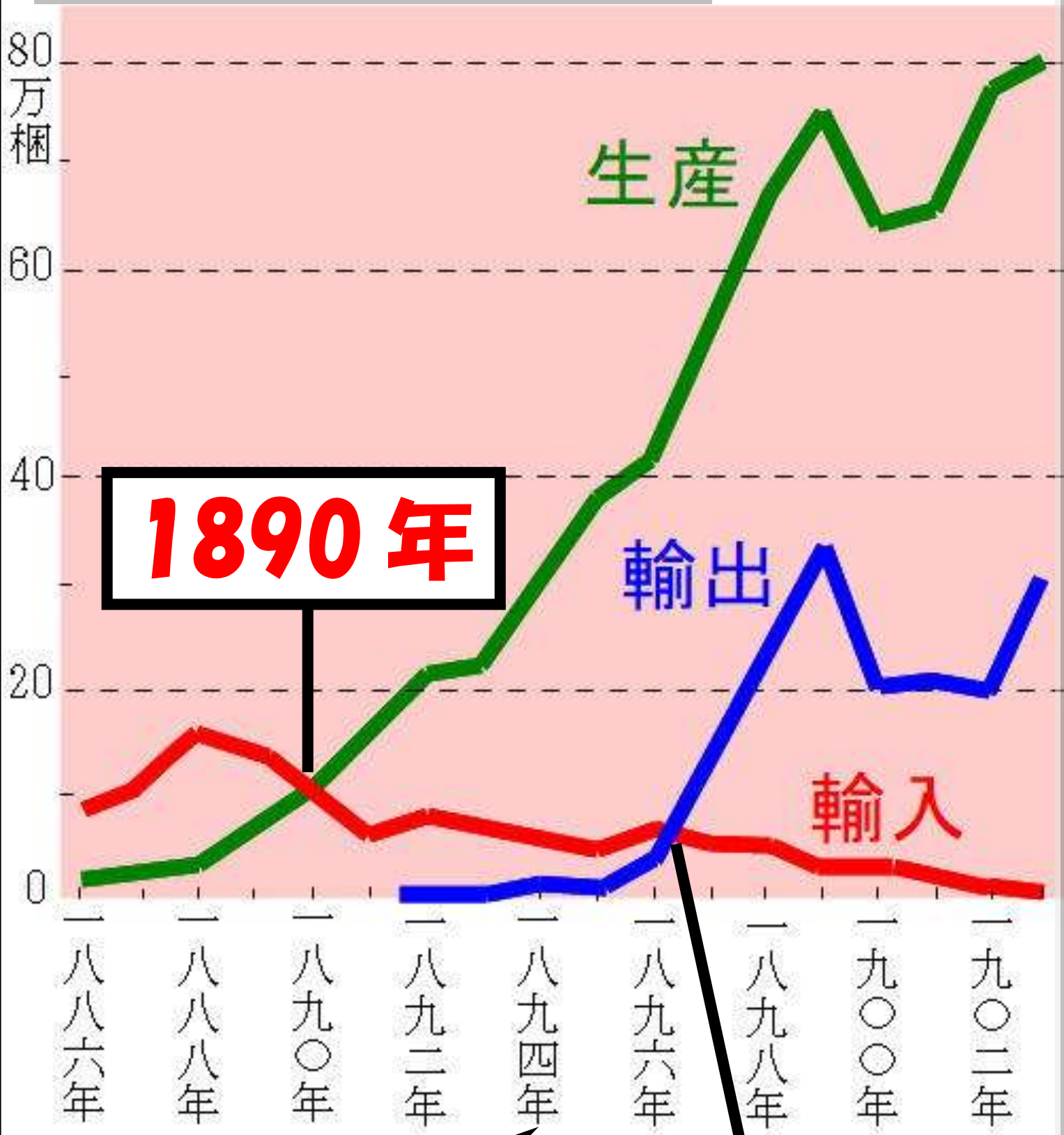
都市部の
大工場
で
発展



リング紡績機



< 綿糸輸出入の変遷 >

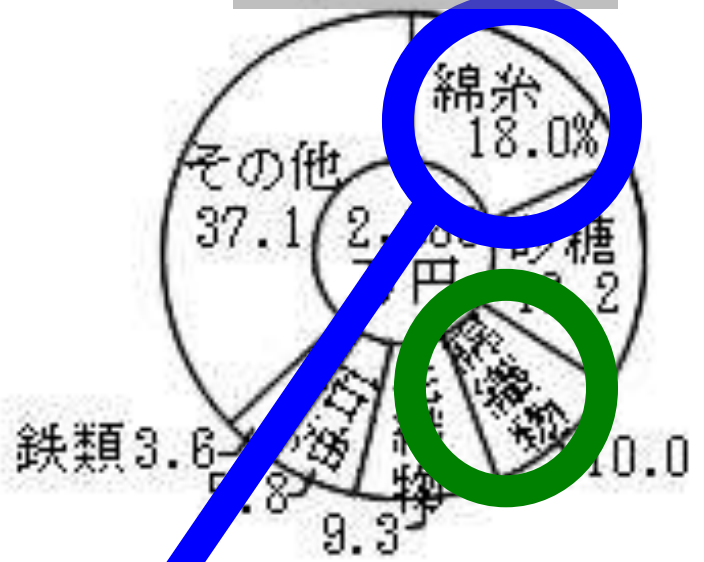


1890年

日清戦争

1897年

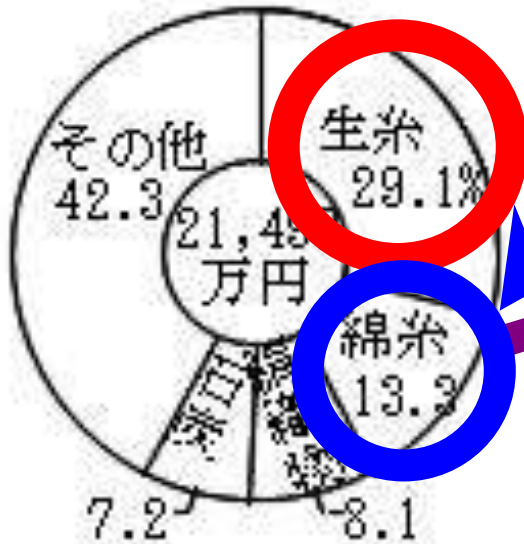
<輸出品> 1885年 <輸入品>



輸出品

1899年

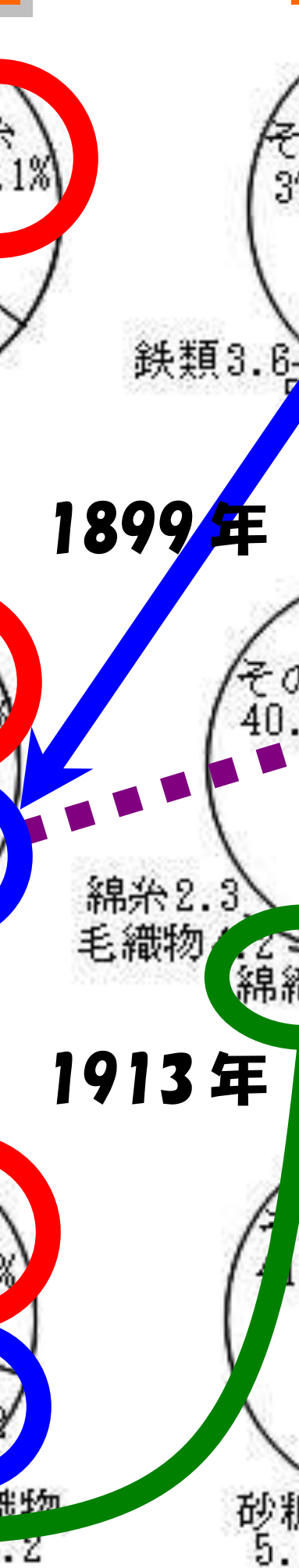
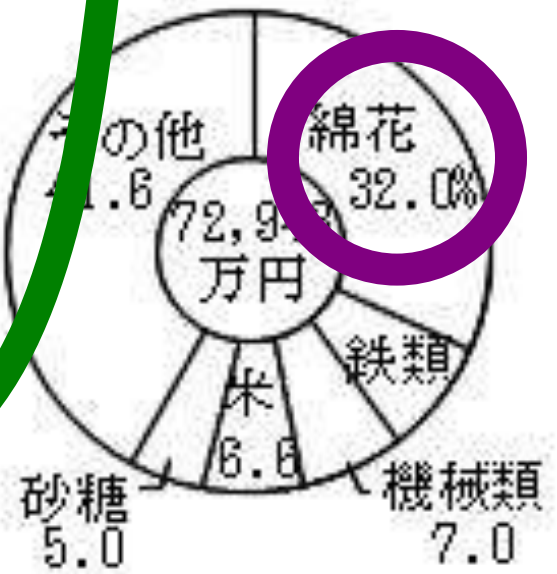
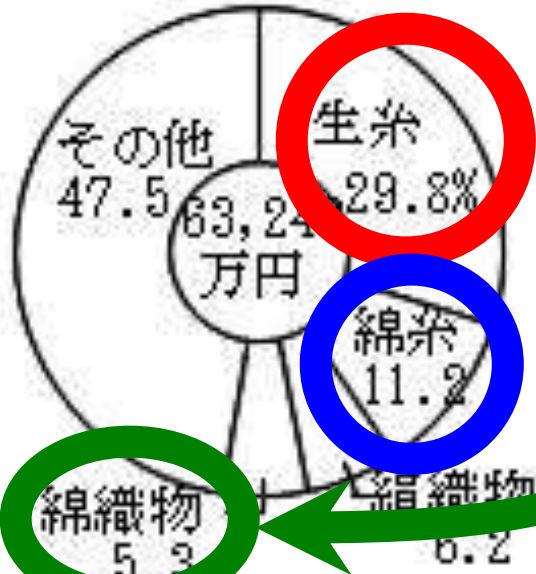
輸入品



輸出品

1913年

輸入品



< 綿織物業の発達 >

(手工業)



動力による
(機械工業)



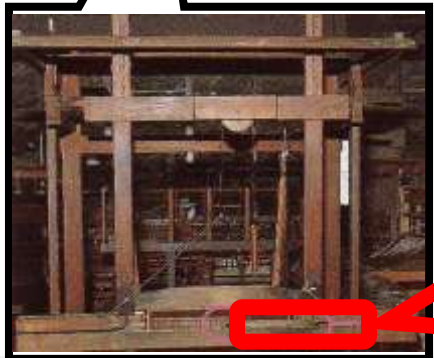
手織機



農村部の
小工場に
普及



国産動力織機



飛び杼



都市部の
大工場に
普及



輸入動力織機

<生糸の輸送ルート>

富岡製糸場

高崎

日本鉄道会社

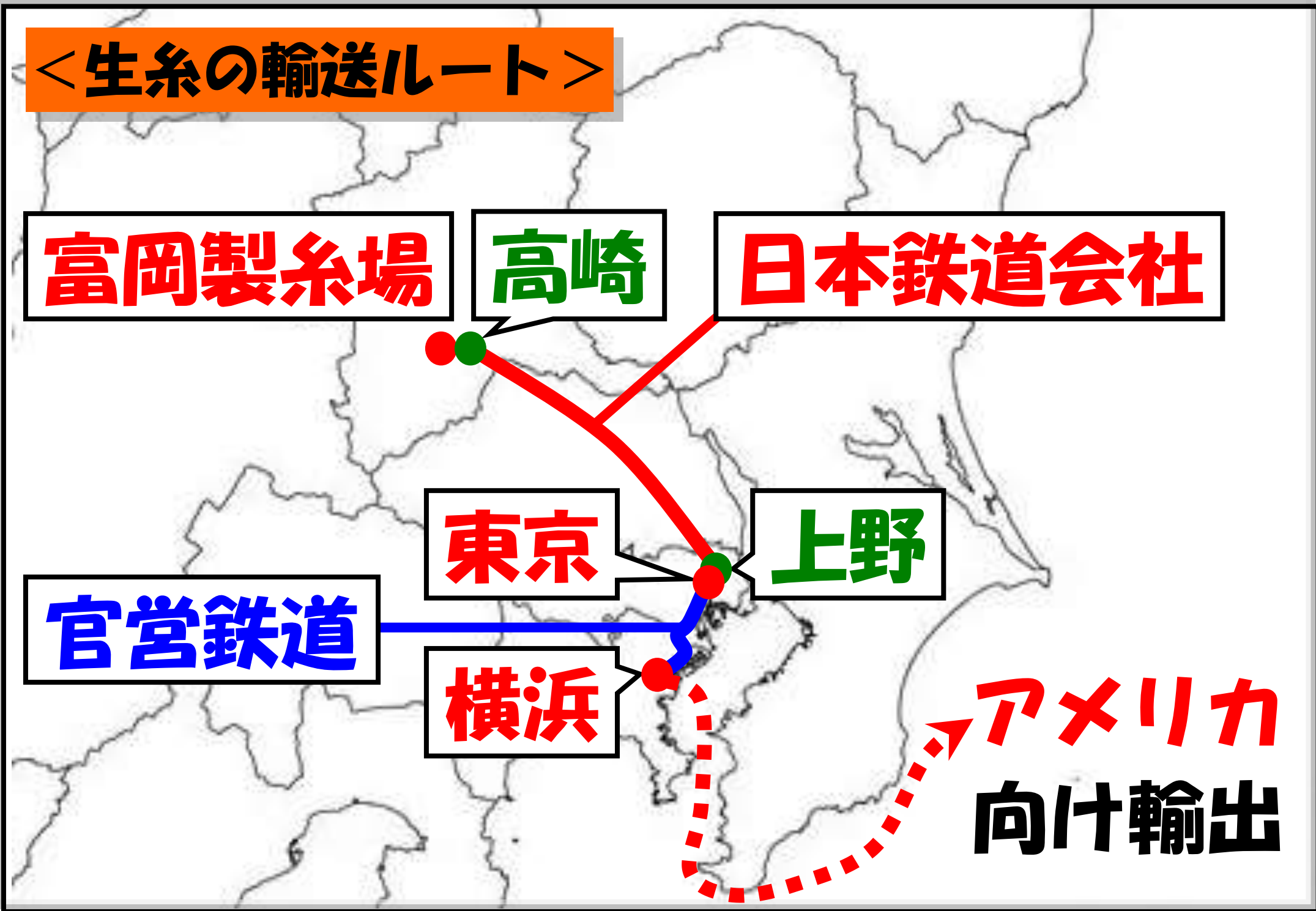
東京

上野

官営鉄道

横浜

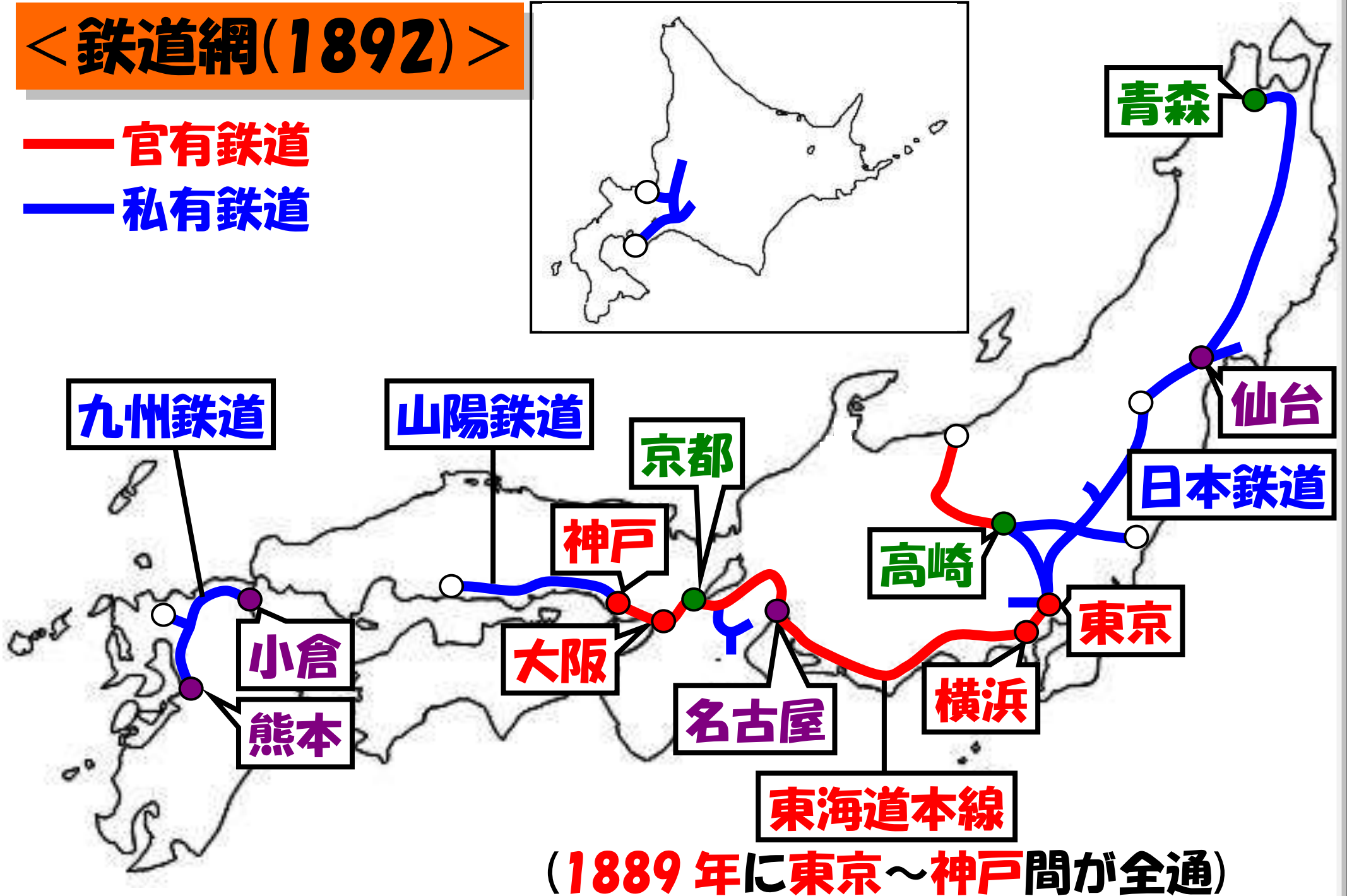
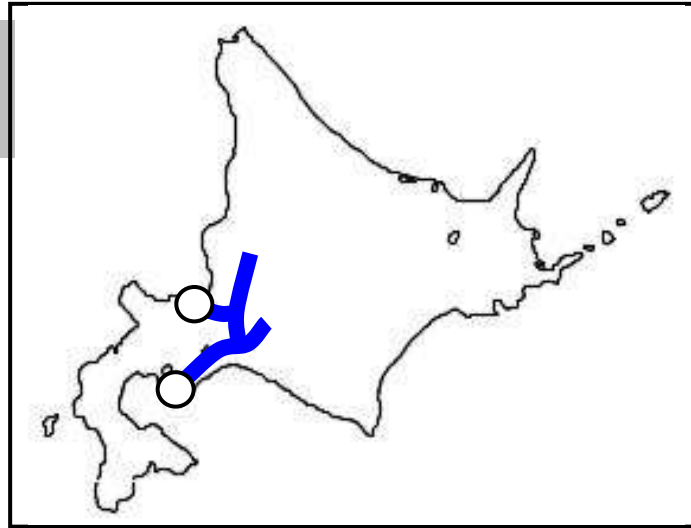
アメリカ
向け輸出



< 鉄道網(1892) >

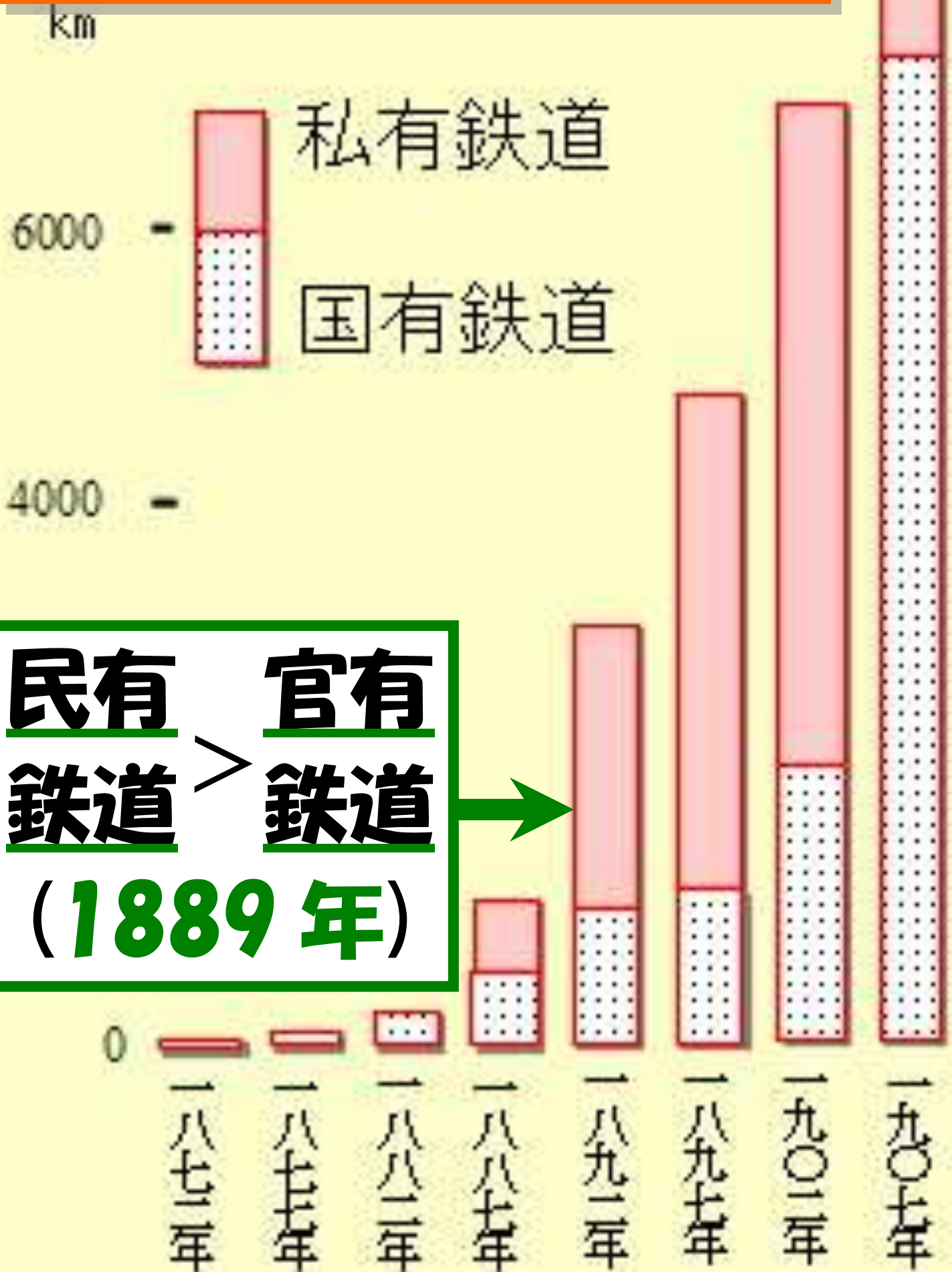
— 官有鉄道

— 私有鉄道



(1889年に東京～神戸間が全通)

< 官有・私有鉄道営業距離 >



私有 > **官有**
鉄道 > **鉄道**
(1889年)

< 官有・私有鉄道営業距離 >

